

彗星ガイド (10)

九段 河村典彦

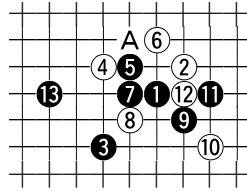
今回は新しい白4に突入してみよう。

【第90図】白4と二間に飛ぶ防ぎは、彗星ならではの防ぎである。

これに対して黒5は多くの場所に打つことができる。例えば黒5と打って、白6をAなら前回の図に戻る。白6はそれ以外の防ぎだが、黒7と固まっておいて不満はない。

白8の防ぎなら、黒9から11と引き、黒13に構えておく。白6を他の防ぎも黒は悪くはならず、結局白6はAと戻すのが最強防であろう。

第90図



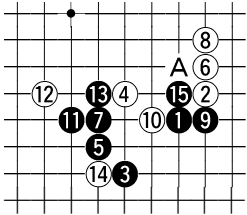
【第91図】この白4には黒はこれまで打てなかった場所に何か所か打つことができる。例えば黒5と外側にコスむのも可能となる。これもすべて白4の位置が遠いからで、一路違うだけで景色が全く違うのが実感できる。

白6と打たれるのが怖いのが、黒7とこちら側でけん制できるのが自慢である。白8と引いてから白10なら、黒11、13と引いてから黒15と落ち着いて止めておいて良い。

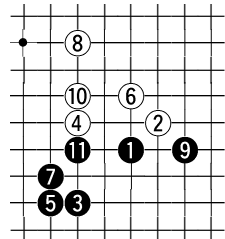
白6をAや10なら黒は14と組んでおいて良い。

【第92図】黒5も打てる。白6、黒7で前図で指摘した形に戻って

第91図



第92図



【第93図】白6の変化。白6の場合は黒7と押さえしておく。白8と止めるが、黒9と固まって黒の方が厚みがある。

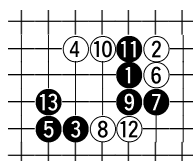
白10、12の防ぎは黒13がびつたりの含み手で、以下追い勝ちとなる。

こうしてみると、白4の位置がかなり離れているのが白にとつて致命的となっている。対して黒5は3の石と連結しており、黒13と打てば立派な勢力となつているのがわかる。

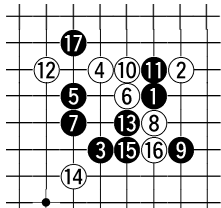
【第94図】黒5は二路上に打つただけだが、白4の石に近づいているだけに、前の図ほど簡単ではなくなる。

白6も変な場所だが白4と関連して強い防ぎとなっている。黒も7と左辺で好形を作るが、白8、10と引いてから白12と打たれるとちよつと厄介になる。黒も13、15と利かして黒17と防ぎに行つて互角の勝負となるだろう。

第93図

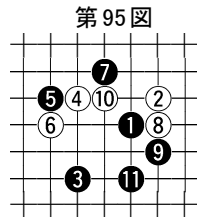


第94図



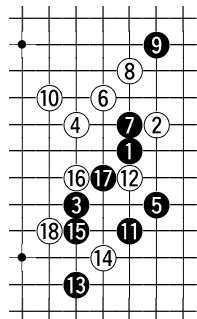
【第95図】前図が打てるなら、もう一路上の黒5も当然視野に入

いる。白8と外側に向かつてトビ三を打つても、黒9と下から止めておくのが大切で、続く白10のトビ三に黒11と続けて下止めをすることにより、四追いが発生している。こうなるともう黒勝ちになるが、調べておかないと白勝ちの変化も多くなる。こういう展開にするなら研究しておかないと痛い目に遭う。



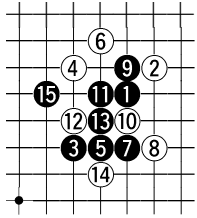
なければならぬ。黒5は直接連を止めているだけに、防ぎに関しては強くなっている。白を防ぐという目的なら十分だ。さらに白8と打たれても黒9で良く、白10に急にギアを上げて黒11と打つことが可能になる。こういう打ち方が連珠ではある意味理想で、防ぎの急所にも入っているので負ける確率が低くなる。

第98図



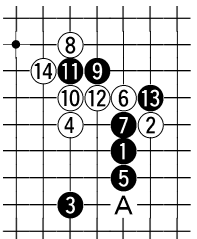
いる。白6までの形と黒5までの形の相性が白の方がいいという事であるうか。
黒7には白8と引き、続けて白10とけん制する手が強烈となる。黒11から攻めてみるが、白18までがっちり防がれると黒はこれ

第96図



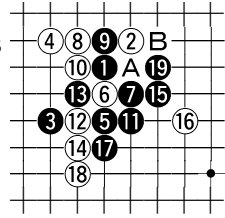
位置なので、白4に石があるハンデを消せる白6はないだろう。譜の白6が少々怖いのが、黒7から9と一旦乗り込み、黒11と止めておけば盤石だ。
白12なら黒13、15で簡単だし、白12を焦

第99図



【第99図】次の黒5もこの白4には通用しないようだ。今度は白6と打たれるのが厳しい。黒7と我慢しても、白8から攻められてしまう。白14とミセ手を打たれ、以下白に左上で勝たれてしまう。
黒7をAと引いて攻めるのも、白7と止められた後やはり白8に飛び出され

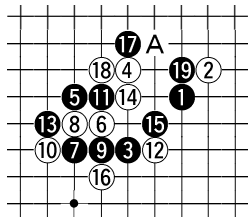
第97図



【第97図】黒5の変化。いつもの黒5だが、白6と防がれると白4との関連性に少々悩むことになる。ここは黒7とけん制するのが良いだろう。白8、10と攻めてきても、黒11で受けられる。白12から14はやむを得ないが、黒15と欲張るのが研究の一手。白16の止めには黒17、19で黒勝ちとなる。白16でAなら黒Bと止めておいてこれも必勝となる。

【第98図】黒5も通常では黒有利になる場合が多い手だが、この白4には適していない。白6と打った形は、白4で6の防ぎ（前回の解説）の時、黒5の対策が白4であったので、それにあてはまって

第100図



【第100図】いよいよ100図を超えてしまいが、まだまだ終わりそうもないのでちよつと説明を省略しよう。最後にご紹介するのはほとんどない黒5である。しかし今回はこれも成立しそうである。白6でここで長星？という形になるが、黒7と打てば盤端が近いものの立派な一手となっている。黒19まで互角だろうか。他に黒5では14やAが打てそうで、全部で10か所ぐらい候補がある。